

令和7年第9回笠間市教育委員会定例会議事録

1 招集日時 令和7年9月24日（水） 午後2時00分開議

2 招集場所 笠間市役所教育棟 教育委員会室

3 議事録署名人 井上英基

4 教育長及び出席委員
教育委員 4名
事務局 11名

5 傍聴人 なし

6 提出された議題（議事） 以下のとおり

7 会議の概要

（1）開会

鳥羽田教育長職務代行者 午後2時00分開会を宣す。

鳥羽田教育長職務代理者 本日は、小沼教育長が不在のため、笠間市教育委員会会議規則第4条の規定に基づき、教育長職務代理者が議事を進めます。

（2）議事録署名人の指名

鳥羽田教育長職務代理者 井上委員を指名する。

（3）教育長の報告

鳥羽田教育長職務代理者 別紙の通りです。

鳥羽田教育長職務代理者 教育長の確認をとっていますので、後ほど確認をお願いします。教育長の報告は以上といたします。

（4）議事

鳥羽田教育長職務代理者 それでは、議事に入ります。本日の議事「報告第14号」、「報告第15号」及び「議案第16号」については、人事案件となりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき、審議を非公開としたいと思いますがい

かがでしょうか。

各委員 (異議なしの声)

鳥羽田教育長職務代理者 それでは、異議なしと認め、「報告第14号」、「報告第15号」及び「議案第16号」の案件を非公開といたします。

【報告第14号】【報告第15号】【議案第16号】 非公開

鳥羽田教育長職務代理者 それでは非公開の案件が終了しましたので、会議の非公開を解除いたします。

鳥羽田教育長職務代理者 続きまして、「議案第17号 笠間市ランドセルの指定化について」事務局より説明を求めます。

事務局 18ページをご覧ください。「議案第17号 笠間市ランドセルの指定化について」ご説明します。本案は、現在希望制としているランドセル給付事業について、令和9年度より、指定化するにあたり提出するものです。笠間市教育委員会では、令和6年度に小学校等へ入学するお子さんから、環境に配慮した笠間市オリジナルのランドセルを無償で給付しております。給付するランドセルは、子育て世帯の経済的負担の軽減と環境教育の笠間市の二つの重要な政策を形にしたものであることから、公平確実な子育て世帯の支援と環境教育を推進するため、令和9年度の新入学生から市の指定ランドセルとするものです。1.事業名称は、ランドセル給付事業、2.指定化の時期は、令和9年4月から、3.対象者は、令和9年度に小学校等に入学する児童とし、今後お知らせ文書の配布やホームページ、SNSなどにより周知を図っていきたいと考えています。4.指定の原則ですが、今回市が指定するランドセルを使用しない例外としては、①身体的理由、②その他教育長が認めるその他の理由の場合の二つのみとし、いずれも文書による理由書の提出を求めていきたくと考えています。なお、詳細な手続きについては、今後要綱を策定していく予定です。5.ランドセルの仕様等です。こちらには、令和7年度までに給付したランドセルの仕様が記載されています。デザインやカラーは指定化に伴い、保証の課題から、今後見直しを検討しており、子どもたちにとって使いやすいランドセルにしたいと考えています。説明は以上です。

鳥羽田教育長職務代理者 ただいま、事務局から説明がございましたが、「笠間市ラン

ドセルの指定化について」は、別紙のとおり上程されています。
これより質疑に入りますが、何かご質問等がございますか。

吉崎委員 デザイン、カラーの見直しを検討中とのことですが、どのようなことを考えているのか、わかる範囲で教えてください。

事務局 現在のランドセルで使用している繊維を取り扱っている事業者が一者だけでしたが、見直しにより選択肢が広がるということで、現在ランドセルを使用している保護者等の意見を踏まえながら、さらにカスタマイズ等を行い、制作していきたいと考えています。

吉崎委員 今のものとは違う形のデザインや色が出てくるということですか。

事務局 その辺に関しても今後検討していくことになります。

吉崎委員 そこも決まってないのですね。現状としては、各家庭で購入したものが6割くらい、市からの給付のものは4割くらいの利用ですか。

事務局 実際使っているのは4割弱です。

吉崎委員 各家庭の希望もあると思うので、よく周知して混乱が起らないようにしてほしいと思います。

事務局 令和8年度に入学するお子さんの家庭に、必ず使用する方のみ「希望する」と回答してください、と希望調査したところ、6割が希望しました。年々品質も向上していますし、保護者からも指定化してほしいという要望もありましたので、総合的に判断して、今回の方向性を示させていただきました。

廣原委員 壊れて修理が必要になった場合は、どこが窓口となるのでしょうか。

事務局 事業者がどこになるかによっても変わってくるかと思いますが、基本、重大な過失による部分は自己負担を考えています。それ以外は、教育委員会で無償の交換などを今のところ考えています。その場合は、学校経由（担任）で教育委員会に連絡してもらうなど、仕組みについてはこれから構築していきたいと考えています。

鳥羽田教育長職務代理人 そのほかございますか。

各委員 (特になしの声)

鳥羽田教育長職務代理人 それでは採決に入りますが、原案のとおり可決することに異議ございませんでしょうか。

各委員 (異議なしの声)

鳥羽田教育長職務代理人 異議なしと認め、「議案第17号 笠間市ランドセルの指定化について」は、原案のとおり可決いたします。

鳥羽田教育長職務代理人 以上ですべての議事が終了いたしました。

(5) その他

鳥羽田教育長職務代理人 続きまして、その他の事項に入ります。それでは、一人ずつ雑感を共有していただきたいと思います。まずは吉崎委員からお願いします。

吉崎委員 次期学習指導要領に向けた、基本的な考え方を示す「論点整理の素案」が、令和7年9月5日に文部科学省の中央審議会から発表されました。この考え方を端的に表現すれば、「多様な子どもたちの『深い学び』を確かなものに」ということになります。『深い学び』は、現行の指導要領においてもキーとなる概念であり、次期の指導要領に引き継がれることになります。私は、『深い学び』で大切なことは、①「問い」を持つこと、②個々の知識を関連づけて、自分なりに構造化すること、であると考えています。そして、『深い学び』は各教科や総合的な学習で、探究的な学びを通して実現されると思います。特に、「総合的な学習の時間」での、個々の子どもの興味関心や、得意なことを中核とする「個人探究」が重要だと考えます。そこで、笠間市の小中学校では、「総合的な学習の時間」で、「個人探究」がどの程度行われているか教えてください。

事務局 各小中学校の総合的な学習の時間の年間指導計画に基づいて、指導実践がされていると思います。そのテーマというのは、福祉関係であったり、自然環境であったり様々ですが、そのテーマの中で一人一人が深い学びに繋がっているかということ、そこはまだまだ補償できていないと感じています。例えば、最近だとSDGsについて学ぼうというテーマがありますが、17の目標から

一人一人選んで、インターネットで調べて終わりというケースもあります。教科で学んだことや体験的な活動を通して、興味を持ったことをさら追究していく、自分の課題を持って学んでいくということが、これから求められていくと思いますので、教育委員会として、今後も引き続き助言をしていきたいと考えています。

吉崎委員

実態は、まだはっきり捉えられていないと思います。クラスごと、グループごとの、協働的な環境学習ということになっていると思います。例えば、環境問題、食糧問題、エネルギー問題、笠間などの地域の問題といったことを、クラスのみんなで追及しましょうとか、SDGsをやしましょうといった形だと思いますが、深い学びということになると、自分の本当に興味関心があること、また得意なこと、そのようなことを伸ばしていくことが非常に重要だと思います。そういう点でいうと、やはり個人探究という部分がほとんど行われていなくて、クラス全体で行う協働的探究で終わっていると思います。この両方が必要だということが、次の指導要領で強調されると思います。特に、個人探究がカリキュラムの中に実際に組み込まれているか、いないか。例えば、総合的学習は小学3年生から始まりますので、3、4、5年生は協働で探究学習をやっていると思いますが、6年生になったら卒業研究のように、自分の本当に興味関心のあるもの、将来の進路に繋がるようなものをやらせてみるようなカリキュラムがあれば、個人探究になります。笠間市の中で、今後そのようなカリキュラムが考えられているのか、現実にそのようなカリキュラムでやっている学校があるのか、中学校はもっとやりやすいと思いますが、今実態はどうなっているのか教えてほしいです。たぶん、ほとんどが協働的探究の学びで終わっているのではないかと私は思っていますが、いかがでしょうか。

事務局

最終学年の小学6年、中学3年の最後の段階で、自分の興味のあることをまとめて発表するという活動を行っている学校はあると思います。ただ一方で、指導の段階において、興味課題の持たせ方が不十分で、学校によっては、大きなテーマから個人のテーマに入っていくような指導の仕方をしている学校も見受けられます。

吉崎委員

大きなテーマ、共通のテーマがあって、例えば、今後の笠間市の在り方や少子高齢化について考えましょうというテーマの下で、それぞれがまたテーマを作っていくやり方もいいと思うのですが、やはり小学校中学校で学んだ中で、本当に興味を持ったことや、

の卵の会など、教員に興味を持っている学生たちが活動できる場があります。子どもたちの声を聞いても、若い先生がたくさん来て楽しかったと言っていますので、そのような活動をやらせてもらえるといいと思います。ただ美術の分野でいうと、美術を専攻していた先生が少ないです。先日、取手市の小学校に東京芸術大学の教授が来て、先生方に美術館鑑賞のレクチャーをしたということです。個性もそうですが、芸術から学ぶということがありますので、そういうことを磨いていくためにも芸術の分野も大切だと思います。笠間市は、笠間高校という芸術に力を入れている学校もありますが、美術と関係のない先生もいますので、ベテランの先生やコロンブスの卵などの力を借りて、芸術分野の充実に何か対策をしているのか、もうすでにされているのか教えてください。

事務局 学校間連携の点では、教育委員会にもコーディネーターがいて連携していますが、芸術分野という点では、連携ができていないかと、まだまだなところがあるので、今後検討していく余地はあると思います。講師が来て、先生に対して研修を行うということもありますが、児童生徒との交流という方向でも検討したいと思います。

井上委員 最後に、先日テレビで国立近代美術館にて、ぬいぐるみを宿泊させるイベントをした、とやっていました。コロナ前には笠間市でも図書館で同じような取り組みをしていましたが、子どもたちが興味を待ち、記憶に残るような企画が美術館でも行われると、前回も話した、来館することの敷居が低くなるのではないかと思います。図書館では、このような取り組みをまた始められているのでしょうか。

事務局 コロナ前に、3～4年連続して実施しましたので、今は別の企画ということで、現在は実施していません。ただ、年間を通して、子どもたちに興味を持ってもらえるような企画を行う上で、以前行っていたものが復活する可能性はあります。

井上委員 ぬいぐるみお泊り企画を、図書館や美術館だけではなく、例えば、難しいかもしれませんが、一般企業や消防署などで行えば、職業体験という形にもつなげていけるのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

鳥羽田教育長職務代理者 続いて、廣原委員をお願いします。

廣原委員

吉崎委員の話の「個人探究」の最たるものは、『博士ちゃん』というテレビ番組だと思います。ここに出てくる子どもたちは、一つのテーマに対してものすごく深く学んでいて、本まで出している子どももいます。ただ、この番組を見ると、かなり保護者のバックアップも大きいと感じます。私が友部中学校に勤務しているとき、入学した子どもたちが、すぐにコロナで自宅学習になり、全く中学校で勉強しないで、個人学習になってしまったことがありました。その時に、やはり保護者の協力が大きくあった子どもは、とても深い学びをしていました。いろいろな料理を作ってみたり、何かを製作してみたり、それをノートにきれいにまとめていて、この子はすごいなと思ったのですが、大体の子どもはドリルをやるなど、自分が今までやってきた方法しかわからないというのが大筋です。深く個人探究した人は、将来まで幅が広がっていくということもあると、吉崎委員の話を聞いて思いましたので、学校でどのように進めていくのか難しいとは思いますが、先生方も研修が必要だと思いました。また、最近気になっていることは、以前鳥羽田委員がお話されていた、教員の不祥事についてです。毎日のように、教員による不祥事が報道される中で、自分がその管理職だったらどうしたらいいのだろうか、いろいろ考えるのですが、自分が管理職だった時には、毎月職員会議で、コンプライアンス関係の話をいろいろなテーマに分けてやったのですが、とにかく先生たちの学校への所属意識を高めるということ、職場や家族に迷惑をかけるという思いが、一番大きなブレーキになるのかなと思いました。鳥羽田委員から話が出たときに、一斉点検を行ったということでしたが、その後、コンプライアンス的な研修などは各学校で行っているのでしょうか。

事務局

水戸教育事務所主催のものはありました。個人情報取り扱いについての研修会は、管理職、教職員全員実施しました。全体的なものは、それぞれの学校で、計画的に行っているという状況です。

廣原委員

何かいい研修とかないのでしょうか。

吉崎委員

研修というより、私は社会規範や職業規範もあると思います。特に教員の質の低下を心配しています。小学校の教員採用倍率が2倍を切っているという状況は、ほぼ合格ということです。大多数の方が、教員になることに対してプライドを持っていると思いますが、なかにはそうではない方もいます。要するに、採用試験を受けるところの質が極端に落ちていると私は思っていて、学力

面と職業観というか、職業に対するプライドの両面が落ちている人が結構入ってきてしまっているのではないかと思います。将来、警察官や公務員までこのようになってしまうと、日本の安全基盤が非常に危ないという状態が、最初に教員に来ているのではないかと思います。ほぼ全員が合格なんて考えられないですよ。小学校でも10年、20年前は、10倍とか20倍、大体10倍くらいはありました。ここまでくると選べないです。そのあたりの教育を、研修だけでできるのだろうかという気が私はしています。集団全体の質の低下があるのではないかと考えているのですが、これをどうにかしなければいけない。学校でどのような研修をやったらよいのか、相当知恵を絞らないといけないと思っています。何も回答がなく、心配ばかりですが、これは教員だけの話ではなく、基本的な安全、一番大事なところの警察官、自衛官など、全部が危なくなっていると思います。市役所は、まだまだ大丈夫だと思っていますけど、子どもが減ったために、いい面での競争力がなくなったと、私は感じています。

廣原委員

なかなか講師もいない中、いい先生だと思っても、年配の先生はICTが足枷になって、もうできませんと言われる方も多いで、教員を確保するのも大変になってくると思います。

鳥羽田教育長職務代理者 質の低下はあると思いますが、先日盗撮で捕まった教員の中には、教務クラスの人物もいたということを考えると、質の低下とはまた別の問題があると思っています。これから採用の時点で、今まで性問題で摘発されたなどの記録が参考にされるということがやっと動き出すということなので、きちんと調べるのが大切になると思います。採用は、笠間市の教育委員会ではなく、茨城県教育委員会レベルのことで、市教委ではデータを見ることはできないんですよ。

事務局

登録すれば、講師などを市で選ずる場合は、直接チェックすることができます。

鳥羽田教育長職務代理者 市でも直接チェックできるのであれば、活用していただければと思います。

鳥羽田教育長職務代理者 それでは私から1点申し上げます。4月の定例会の際、修学旅行について、物価の高騰や、ほかにもいろいろと難しい問題があると話しました。先週の茨城新聞に、水戸市の取り組みが掲載されており、現在の5、6年の児童と保護者にアンケートを实

施するとありました。いろいろなところで、物価の高騰や交通機関を利用しにくくなっていることなどにより、修学旅行に対する取り組みが検討されているのかと思いました。本日のニュースでも取り上げられていて、東京の中学校が修学旅行を北陸に変更して、余裕のある修学旅行が行えたということでした。笠間市として、修学旅行に関して動き始めたことがあれば教えてください。

事務局

教育委員会からの働きかけは、今のところありません。茨城県の修学旅行委員会からちょうど調査が来ていて、今年度の実施状況や今後について調査しています。基本的には学校で検討し、市教委としては、それに対しての指導助言はできるけど、笠間市全体でこういうふうにしていこうということは、今のところ行っていません。

鳥羽田教育長職務代理者 諸課題なく、うまくできることがいいと思うのですが、物価高とか、いろいろ考えると難しいと思うので、今後課題として挙がってくるのかなと思います。具体的にできることとして、少人数校は負担が重くなりやすいので、他校と合同で実施することで、少し負担を軽くするなど、来年度に向けて、比較的取り組みやすいことからできないものでしょうか。

吉崎委員

今つくば市と関わりがあるので、話を聞く機会があるのですが、つくば市では、各校時期は違いますが、全校が鎌倉から江の島、千葉の木更津というルートで、宿泊も全校同じところにいるそうです。同じホテルなので、契約もホテル側もやりやすいようですし、宿泊代が少し安くなるとか、いろいろ都合をつけてくれるとかあるようです。笠間市は何か工夫をしているのでしょうか。

事務局

笠間市は、コースや金額モデルなどは業者の企画で行っていません。

吉崎委員

もう少しだけ言わせていただくと、日本の公教育も全く違ってしまったと思っています。港区の教育にも関わっていますが、港区の中学校の修学旅行は、全校シンガポールに行くそうです。30万円かかるそうですが、そのうちの8割は区の負担で、2割だけが個人負担です。家庭の事情によっては、全額、区が負担するそうです。港区だからできるのだと思いますが、公教育なのに、財政の事情であまりにも違う、これが許されるのでしょうか。30万の8割と言ったら24万、これを全員に援助するわけです。それだけ、意味のあるものだと考えて実施しているのだと思うの

ですが、公教育であって、私学ではないわけです。日本の中で、住んでいる場所によって、こんなに違いがあつていいのかと、愕然としました。それは笠間の問題とは結び付かないものですが、日本全体を考えると、修学旅行も、地域格差というか、財政格差と言ったらいいのかがありすぎると思いました。

鳥羽田教育長職務代理者 港区とは比較が難しいと思いますけど。

吉崎委員 ただ、このように格差があつて、国は何ともしようと考えないのかと思っています。

井上委員 できるところは、いくらでもあるのでしょうか。そして、教育に力を入れている地区に、若い人が集まっていくのでしょうかね。

廣原委員 そういうこともあるでしょう。

吉崎委員 港区はなかなか住めないところですが、茨城県内でも県南に人が行くというのは、そういう理由もあると思います。これ以上、あえてまとめません。

鳥羽田教育長職務代理者 ほかにございますか。

各委員 (特になしの声)

(6) 閉会

鳥羽田教育長職務代理者 午後2時46分閉会を宣す。

8 議決事項

報告第14号	専決処分の承認を求めることについて	承認
報告第15号	専決処分の承認を求めることについて	承認
議案第16号	笠間市いじめ調査委員会委員の委嘱について	可決
議案第17号	笠間市ランドセルの指定化について	可決